



第2会場●2F 自由研修室

司会／鶴田 史子 熊本県教育庁教育総務局社会教育課 社会教育主事
重富 泰敏 福岡県教育庁福岡教育事務所社会教育室 主任社会教育主事

分科会の進め方

10:45~10:50

1 手作り紙芝居から繋ぎ始めた地域活動の輪と和

10:50~11:20

木村 泰代(佐賀県佐賀市) 佐賀市諸富地区民生委員・児童委員協議会 会長

きっかけは昭和59年の夏休みラジオ体操まで遡る。余り楽しそうに見えなかった子どもたちのために始めた紙芝居や読み聞かせの輪が小児科病棟の医療ボランティアにつながり、学校支援につながり、高齢者サロンにつながった。自治会や公民館の協力を得て、夏休みの勉強会や遊び場の提供もできるようになった。そうした過程で子どもと高齢者を繋ぎ、地域の人々の関心も喚起して、老人クラブやPTAの力も借りられるようになった。ささやかな紙芝居ボランティアが多くの人々の顔の見えるコミュニティ活動に広がったのである。

2 子ども・大人の居場所を次世代に繋ぐ地域力

11:25~11:55

木下 光子(鳥取県米子市) 崎津地区子どもふれあい活動実行委員会 副会長
實近 孝子(鳥取県米子市) 崎津地区子どもふれあい活動実行委員会 委員

平成16年、文科省の「子ども地域活動支援事業」として開始、委託は3年で終了したが、スタッフもプログラムも増強して今日に至っている。受益者負担は「ワンコイン」とし、実行委員会は各種団体と連携し、子ども会、青少年育成会等と予算を出し合っている。対象は崎津小学校の児童218名、毎回のプログラム参加率は2~3割を保っている。公民館を活動拠点とし、四季を通じ、経費をかけず、多くの子どもが参加できるよう地域を舞台にして展開するプログラムを工夫している。異年齢の活動、安全を重視し、スタッフによる見守りや医師または看護師を配置するなど危機管理を徹底している。

3 「地域の子どもは地域で育てる」—新しい学校運営の創造—

12:00~12:30

三島 智彰(長崎県佐世保市) 佐世保市立祇園小学校支援会議 副委員長(校長)

12年前市内の2小学校が統合されて祇園小が誕生した。「支援会議」は平成19年度に発足し、考え方や行事の異なる二つの地域の融和も重要な目的の一つである。支援会議は月1回の定例会を通して、地域と学校が「目指すべき子ども像」を共有し、委員が主体的に役割を分担し、カリキュラムを含む学校運営に地域の参加を促し、「放課後子ども教室」についても地域の有志に指導をお願いする仕組みを確立している。結果的に、活動の範囲が広域化し、中学校との連携も進み、様々な協働の展望が広がっている。